

平成28年度福岡市小図研2月定例会記録

文責：池田裕美（野多目小）

2月定例会の内容

日時：平成29年2月11日（土）

15:00～17:00

場所：アジア美術館 あじびホール

内容：

講演（1）「どこでも美術館がやってきた」

講師 福岡市美術館学芸員

鬼本 佳代子 様

講演（2）退官記念講演

堤 小学校 校長 今林 功一先生

横手小学校 校長 古田 秀人先生

参加者：50名

講演（1）

「どこでも美術館がやってきた」

講師：福岡市美術館学芸員

鬼本 佳代子様



1. 対話型鑑賞とは

トークする者が解説するのではなく、子どもたちに「何が見える？」「何が起きていると思う？」という問いかけをすることで、子どもたちに能動的に作品をみることを促す手法
(例) ジョアン・ミロ「ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いている踊り子」の作品で



「何が見えるかな？」

- ・ 人が浮いている。
- ・ 虫みたいなのがいる。
- ・ 月と星があるから、夜かな？
- ・ 音符みたいなものがある。

「どういう場面なんだろう？」

- ・ みんなおばけで、灰色のところがこの世で、黒いところはあの世で、あの世とこの世の境目で踊っている。
- ・ みんな宇宙人で、宇宙空間にいるから、ぷかぷか浮いているんだ。

2. 福岡市美術館のスクール・ツアーについて

目的

ア) 「見る」体験をしてもらう

自分の力で気づく体験が鑑賞を楽しくさせる。

イ) 見たことについて自分の考えを述べる体験をしてもらう

- ① 考えを口に出し、頭の中の情報を整理する。
- ② 他人と意見をわかちあうことで、自分自身の考え、視点を拡大する。

ツアーを実施するときの留意点

- ① 5W1Hの質問をする。
- ② 同意する。
- ③ オウム返しをする。
- ④ 褒める。

※ 休館中（H28.9～H31.3）は「どこでも美術館」として、3つのボックスをもとに出前講座を行っている。

出前講座「どこでも美術館」について

- 絵画・彫刻ボックス
 - ・ 2種類の複製画
マルク・シャガール「空飛ぶアトラージュ」
長谷川派「韃靼人狩猟図屏風」
 - ・ 1種類の実物
現代美術家 藤浩志氏による立体作品



- 焼物ボックス
 - ・ 陶片（実物）
 - ・ 原料
 - ・ 唐津焼や古伊万里のレプリカ



- 染物・織物ボックス
 - ・ 原料・材料の実物など

